

平成22年度 学校自己評価一覧シート

教育目標

- ① 発展性のある学力と高い知性を身に付ける
- ② 正しい判断力と豊かな情操を身に付ける
- ③ 強い体力と逞しい気力を身に付ける

本年度の重点目標

- ① 品位ある西高生
 - ・ 礼節を重んじ、自らを律する態度の涵養
 - ・ 人権意識の発揚
 - ・ 環境美化
- ② 智をみがく西高生
 - ・ 高い志と強い意志・意欲の涵養
 - ・ 確かな学力の育成
 - ・ 授業・補習等への積極的な取組
- ③ 逞しい西高生
 - ・ 文武二道
 - ・ 学校行事への積極的な参加と取組
 - ・ 疾病・傷害の未然防止

※達成度は4段階で評価する。
 4：大変よくできた。
 3：まあまあできた。
 2：あまりできなかった。
 1：全くできなかった。

愛知県立一宮西高等学校
平成22年9月

項目	本年度の重点目標	具体的方策	評価規準・基準	中間評価	達成度	中間評価修正点
学校行事 (総務部) (生徒指導部) (各学年会)	式典や集会を通して品位・品格を高める	・式典の意味を認識させた上でのそれに相応しい品位あるみだしなみの定着	4 8割以上の肯定的評価が得られた 3 6割以上の肯定的評価が得られた 2 4割以上の肯定的評価が得られた 1 肯定的評価が4割に満たなかった	生徒の94.1%、職員の92.7%が品位ある身だしなみで式典に臨むように指導していると回答している。しかし、体育館の中で身だしなみを整えたり、職員から注意されて気がつく生徒が少なからず存在する。	3	式典の前に啓発文書を出して意識を高めさせる。
		・校歌斉唱を通じた西高生としての自覚の向上	4 8割以上の肯定的評価が得られた 3 6割以上の肯定的評価が得られた 2 4割以上の肯定的評価が得られた 1 肯定的評価が4割に満たなかった	そう思わないという回答は、職員が16.3%であるのに対して、生徒は43.7%と大きく上回っている。特に3年生では52.5%と過半数に達している。	2	式典の前に啓発文書を出して、校歌斉唱について、生徒の意識向上に努めたい。
	P T A との連携の促進	・情報交換の充実	役員会・理事会・支部総会などを通してP T A との情報交換がしっかり行えたか。 4 8割以上の肯定的評価が得られた 3 6割以上の肯定的評価が得られた 2 4割以上の肯定的評価が得られた 1 肯定的評価が4割に満たなかった	中間評価は実施せず。		なし
学習指導 (教務部) (進路指導部) (各教科会) (各学年会)	学習意欲の喚起	・3年間を見通した教科シラバスの積極的活用	4 シラバスによって家庭学習が活発になり、学習効率が向上した(生徒・教員がともに効用を認めた) 3 1・2年次のシラバスを活用し、生徒に学習活動への展望を持たせることができた(50%以上の生徒が評価した) 2 1・2年次のシラバスを活用し、生徒に学習活動への展望を持たせることができた(50%未満の生徒が評価した) 1 シラバスの活用について教科会で協議したことがなく、生徒もほとんどみていない	中間評価は実施せず。		なし
		・分かりやすい授業の研究	4 課題を明確にした授業を実施し、授業改善に取り組んだ 3 教授法の研究協議をふまえ、多くの教員が授業展開に工夫を加えた 2 現在の教授法の問題点を教科会で研究協議した 1 授業のあり方について教科会での研究協議がほとんどなかった	中間評価は実施せず。		なし
	・発展性のある学力の育成	発展性のある学力を育成するために、教科指導や学年運営及び学級運営において 4 充分に取り組むことができた 3 ある程度取り組むことができた 2 あまり取り組むことができなかった 1 全く取り組むことができなかった	中間評価は実施せず。		なし	
生徒指導 (生徒指導部) (各学年会)	安心安全な学校生活につながる積極的な生徒指導	・生徒の自己防衛意識向上に向けた積極的な啓発活動の展開	指導全般と、生徒の意識向上の様子について 4 8割以上の肯定的評価が得られた 3 6割以上の肯定的評価が得られた 2 4割以上の肯定的評価が得られた 1 肯定的評価が4割に満たなかった	生徒の8割以上、教員の9割以上から概ね肯定的評価を得た。しかしながら、2・3年生では2割弱の生徒が啓発活動に関心がないように思われる。	3	最終評価に向けて、より具体的な方策を計画したい。
		・規範意識と心豊かな人間性の涵養	4 8割以上の肯定的評価が得られた 3 6割以上の肯定的評価が得られた 2 4割以上の肯定的評価が得られた 1 肯定的評価が4割に満たなかった	生徒では、1・2年生の9割以上から概ね肯定的評価を得たが、若干3年生では低かった。教員においても、3年生と同様な結果であった。	3	最終評価に向けて、より具体的な方策を計画したい。
	・交通安全指導の充実	4 年間の交通事故件数が10件未満となった。 3 年間の交通事故件数が15件未満となった。 2 年間の交通事故件数が20件未満となった。 1 年間の交通事故件数が20件以上となった。	中間評価はせず。		なし	
進路指導 (進路指導部) (各教科会) (各学年会)	進路希望の実現	・努力を前提とした希望進路の設定	進路情報の提供や様々な学習活動を通して、努力を前提とした進路選択をさせることができた 4 8割以上の肯定的評価が得られた 3 6割以上の肯定的評価が得られた 2 4割以上の肯定的評価が得られた 1 肯定的評価が4割に満たなかった	ほとんどの教員から肯定的評価を得た。	4	高い進路目標や努力を持続させるための指導方法を考えていく必要がある。
		・進路情報の整理・検討と、ニーズに応えた進路情報の提供	4 8割以上の肯定的評価が得られた 3 6割以上の肯定的評価が得られた 2 4割以上の肯定的評価が得られた 1 肯定的評価が4割に満たなかった	教員および生徒とも8割以上の肯定的評価であったが、1・2年生では若干低めの数値となった。	3	大学受験を中心とした情報がほとんどであるため、1・2年生では低めの結果となってしまった。
	・補習等の課外学習指導の充実	4 8割以上の肯定的評価が得られた 3 6割以上の肯定的評価が得られた 2 4割以上の肯定的評価が得られた 1 肯定的評価が4割に満たなかった	教員および生徒ともおよそ9割以上の肯定的評価であった。勤務時間を超えた教員の指導に対して、高い意識で生徒が応えてくれていると言えるのではないかと。	3	教員に負担を強いている課外指導については、より一層の効率化を目指す必要がある。	
安全指導 (保健部) (各学年会)	傷害・疾病防止への取り組みと校内美化の推進	・傷害・疾病防止のための意識の向上	トレーナー講習会を通して、傷害・疾病防止の意識の向上が図れたか 4 8割以上の生徒がケガ防止を意識するようになった 3 6割以上の生徒がケガ防止を意識するようになった 2 4割以上の生徒がケガ防止を意識するようになった 1 4割以下の生徒が意識の変化がなかった	中間評価は実施せず。		なし
		・救命具操作技術の習得	救命具操作講習会の参加を通して、操作技術を習得できたか。 4 8割以上の生徒が習得できた 3 6割以上の生徒が習得できた 2 4割以上の生徒が習得できた 1 操作技術の習得できたのは4割未満であった	生徒対象の講習会は53名の参加者のうち、43名(81%)が十分に技術を習得できたと回答した。教職員の参加者は28名中、操作手順がスムーズにできた16名(58%)が回答した。毎年講習会に参加して操作手順を再確認することが大事だと思う。	3	教職員の参加者をもう少し増やしたい。命を救うためには、操作技術に自信を持つことが大事であるので今後も講習会を実施する。
	・生活環境と清掃に対する生徒の意識高揚	4 8割以上の生徒が素早く移動し清掃ができた 3 6割以上の生徒が素早く移動し清掃ができた 2 4割以上の生徒が素早く移動し清掃ができた 1 4割以下の生徒が移動が遅かった。	清掃に集中して取り組んだか、素早く取り組んだか、という項目に7割近くの生徒が肯定的な回答をしている。しかし、「あまりできなかった」という生徒が2割近くいるので学校環境を清潔に保つことの大切さを教えていきたい。	3	音楽とともに移動を早くして環境整備に努めさせる。	
部活動 生徒会行事 (生徒会部) (各学年会)	部活動成果の向上と学校行事の充実・発展	・日々の練習の充実	毎日の練習が 4 充実していた 3 ある程度充実していた 2 あまり充実していなかった 1 充実していなかった	中間評価は実施せず。		なし
		・委員会活動の活性化と生徒の主体的な参加	学校行事に 4 積極的に参加できた 3 ある程度積極的に参加できた 2 あまり積極的に参加できなかった 1 積極的に参加できなかった	中間評価は実施せず。		なし
読書指導 (図書部) (各教科会) (各学年会)	積極的な図書館利用の推進	・図書委員による行事活動の充実	行事活動が 4 充実していた 3 ある程度充実していた 2 あまり充実していなかった 1 充実していなかった	図書委員のアンケートをもとに、初夏の企画展のテーマを考えた。1・2年生の遠足や修学旅行での短歌・俳句の展示も行った。例年よりも短期間での準備であったが、執行部を中心に工夫した展示ができた。	3	さらに充実した企画展などができるよう、テーマ選択や展示・広報方法に工夫していきたい。
		・生徒の読書推進	図書の貸し出しが 4 増加した 3 ほぼ同程度だった 2 やや減少した 1 減少した	6月までの貸出冊数を比較すると、20年度891冊、21年度886冊、22年度761冊と減少傾向にある。来館者数は増加している。	2	今年度の貸出冊数の減少には新着図書の配架の遅れがあると思われる。今後も新着図書案内・図書館日より等で本の紹介に努めたい。
	・利用しやすい図書館への工夫	利用しやすい図書館への工夫ができたか 4 十分に工夫できた 3 ある程度工夫できた 2 あまり工夫できなかった 1 不十分であった	中間評価は実施せず。		なし	